

式辞（1学期始業式）

皆さん、おはようございます。本日から令和6年度が始まります。5年度は大変な年でしたが、今年度は皆さんにとって素晴らしい年度となるよう、願っています。

今日は1学期の始業にあたり、稲盛和夫さんの言葉を紹介いたします。皆さんは稲盛さんの名前を聞いたことがありますか。稲盛さんは残念ながら一昨年お亡くなりになったのですが、京セラという・セラミックキッチン用品・リチウム電池・ソーラー発電システムなどを制作している会社を1959年に起業し、世界に冠たる企業に育てた方です。日本航空のJALが倒産しそうになったときに会長として立て直した方でもあり、多くの名言を残した方でもあります。そのうちの一つを紹介いたします。

それは、「強く思い、実現を信じて前向きに努力を重ねていくこと。それが人生においても、また経営においても目標を達成させる唯一の方法であると言える。」というものです。物事を達成するには、まずそうなりたいと強く思わないといけないと彼は言っています。

付け加えて、世の中のことは思うようにならないと、私たちは人生で起こってくる様々な出来事に対して、ついそんなふうに見限ってしまうことがあります。けれどもそれは、『思うとおりにならないのが人生だ』と考えているから、その通りの結果を呼びよせているだけのことで、その限りでは、思うようにならない人生も実はその人が思ったとおりになっていると述べています。

人生はその人の作り出したものであるという考えは、多くの成功哲学の柱となっている考え方ですが、私もまた、自らの人生経験から、『心が呼ばないものが自分に近づいてくるはずがない』ということを経験として強く抱いています。つまり実現の射程内に呼び寄せられるのは自分の心が求めたものだけであり、まず思わなければ、叶うはずのこともかなわない。

その人の心の持ち方や求めるものが、そのままその人の人生を現実形に形づくっていくのであり、従って、事をなそうと思ったら、まずこうありたい、こうあるべきだと思ふこと。それも誰よりも強く、身が焦げるほどの熱意を持って、そうありたいと願望することが何より大切になってきます。棚ぼたを期待せず、強く思い、精一杯努力することが、成功の必要条件だということです。

また、彼はこうも言っています。「神が手を差し伸べたくなるぐらいにまで頑張れ。」

3年生は進路実現に向けてエンジンを吹かして頑張る時期であり、2年生は進路目標を明確にし動き始める時期です。どうか、六年度は、悔いのないよう頑張ってくださいと、強く思っています。

加えて、努力を結果に結びつけるために、学ぶ姿勢も整える必要があります。遅刻をしないこと、授業に集中し寝ないこと、提出物は必ず出すこと。この3つをしっかりと欲しと、これも強く思っています。

もう一つ皆さんにお話ししたいことがあります。それは「真剣だからこそ楽しい」ということです。皆さんに勉強と

ゲームのどちらが楽しい？と聞くと、全ての人がゲームと答えると思います。しかし、本当にそうでしょうか。ゲームが楽しいのは、真剣で集中しているからです。ただの時間つぶしで身が入らず、集中力を欠いていれば、例えゲームであっても面白くありませんし、上手くいかないときは、直ぐにリセットします。

裏返せば、勉強は嫌々やるから面白くないのです。勉強も前向きに、そして真剣にやれば、楽しいのです。分かる楽しさを味わうことができるのです。皆さんの人生はリセットできません。私に騙されたと思って、真剣に勉強してみてください。ゲームやスマホより勉強の方が断然人生の糧となることは、皆さんも承知してるところです。私に騙される前に、「勉強は楽しい」と自分で騙てもかまいません。人間の脳は単純で、自分が騙しても騙されやすいですので、皆さんも試して下さい。そして、蛇足になりますが、脳は糖質をエネルギーとしていますので、真剣な勉強は、減食しなくても痩せられる健康的なダイエットでもあります。

以上、校訓である「清・慎・謹」のもと、皆さんが進路や部活動などで活躍することを願い、一学期始業式の式辞といたします。

令和6年4月8日

石川県立 飯田 高等学校長 角 秀明

皆さん、頑張っていきましょう！